NAFLD/NASHの疫学

東京女子医科大学東医療センター内科（消化器内科） 小野　正文
佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科 高橋　宏和
佐賀大学医学部附属病院肝疾患センター 江口有一郎

KEY WORDS
●NAFLD/NASHの有病率
●NAFLD/NASHの有病率の国際比較
●非肥満者の有病率
●小児の有病率

は　じ　め　に

肥満や糖尿病，高血圧，脂質異常症などのいわゆるメタボリックシンドロームを有する人の割合はわが国においても増加しており，それと同時に脂肪肝を有する患者の割合も増加している。近年のC型肝炎治療の進歩に伴って，今後は脂肪肝が一番重要な慢性肝疾患の１つとなることは確実である。このため本稿では，非アルコール性脂肪性肝疾患（non-alcoholic fatty liver disease：NAFLD）や非アルコール性脂肪肝炎（non-alcoholic steatohepatitis：NASH）の疫学について，わが国の有病率，肥満や糖尿病の有病率との関連，有病率の国際比較，非肥満患者の有病率，小児の有病率に分けて概説する。

Ⅰ．わが国におけるNAFLD/NASHの有病率

わが国のNAFLDの疫学調査としては，2012年報告の多施設の検診データ（高知大学，広島大学，佐賀大学およびその関連施設）に基づく調査結果が重要である。それによると，NAFLDの有病率は29.7％であり，以前の報告よりも増加傾向であることが明らかとなっている。さらに男女別有病率は男性41.0％，女性17.7％であり，飲酒者を含む脂肪肝の有病率と同様にNAFLDにおいても男性のほうが高率であることも明らかとなった（**図１**）[1]。また，年齢別有病率では男性が中年層，女性が高齢層ほどNAFLDの有病率が高く，男女で発症年齢にも違いがあることが明らかとなった。

わが国におけるNASHの有病率は人口の３～５％程度と推定されているものの，肝生検患者のセレクションバイアスのため，いまだに正確な有病率は

Epidemiology of NAFLD/NASH.

Masafumi Ono（准教授）
Hirokazu Takahashi（講師）
Yuichiro Eguchi（特任教授）

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.